
追憶の底で・L O S E R

~詩~

相樺りわ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

追憶の底で・LOSER ～詩～

【著者名】

NO458F

【作者名】

相櫻りわ

【あらすじ】

すれ違う二人の気持ち。兄は妹を想う・・・少し切なく未練がましい詩を読みたいときや感傷的になりたいときにチラッとお覗きください。

(前書き)

初詩です。

～追憶の底で～

貴方と離れたくなくて

かけたこの魔法・・・

忘れたくなくて 嫌われたくなくて

悩んで 泣き崩れて 過ぎゆく夜・・・

好きだから

君のこと いつか 思い出せるよう

今は魔法に 閉じ込められて

追憶の底で 忘れないでね

I LOVE YOU . . .

好きなのに想を 憶えてなくて

ごめんね 淋しさ じりしさうれず うれず に・・・

好きなのに

君にもね いつか 幸福の瞬間しあわせのじきがあるよひうこ

わたしは願うよ 追憶の奥底おあじで

追憶の底 忘れてもね

ダ イ ス キ

君の事 いつも 想つているよひうこ

今は魔法に 身を任せて

追憶の底 忘れないでね

I LOVE YOU

追憶の中・・・ その時をまつて

・・・・・ l o v e ・・・・・・・

♪ LOSER ♪

お前が去ってから わたしは大人になった

わたしの心には いつも大きな穴が空いていて

その穴は いつも お前を求めてる

こんなにも 愛しい存在から

何故 わたしは 離れなければならぬ?

わたしにとつて 大切な存在から

わたしは お前を 愛するが故に

おつてやうねばと 思いすぎたのか

甘えているのは 愛してこるのは

わたしとお前の ビタなんだか・・・

再びやつと 再会のとき

お前をしつかり 腕に閉じ込めて

優しい温もり 今はわたしのものだよ

こんなにも 愛する存在を

何故わたしは 手離してしまったのだろう？

わたしにもきっと 捉まえる術はあった

わたしに お前は 必要不可欠

お前がいないと 夜も明けない

離れていくのは それを追うのは

わたしとお前のどちらなんだろう・・・

今こそわたしは 離れなければ

いつまでもお前を 離さずにもてない

甘えているのも 追いかけるのも

あつといつも わたしの方だから・・・

”敗者”のわたしに逃げ道はなかつたんだ・・・

(後書き)

はい、ちょっと意味がわかりませんでしたね～！

これは、兄妹の詩です。「追憶の底で」は妹の方が兄ではない好き
な人に当てて書いた詩、「LOSER」はそんな風に大人びていく
妹を未練がましく見る兄の目線でござります。

では、ありがとうございました～！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0458f/>

追憶の底で・L O S E R ~詩~

2010年10月20日18時57分発行